

モニタリングサイト1000 里地調査ニュースレター

No. 20 (2021 Feb.)



今回の表紙：エナガ
(撮影：梶浦 敬一氏)

事務局より

モニ 1000 里地調査全国交流会 2020

「with コロナ時代の里山の活用と保全」を開催

小林 彩 (日本自然保護協会)

全国の里地調査の関係者が集う全国交流会。2020年度は12月5日(土)にオンライン会議システムを利用して開催しました。当日は岩手県から熊本県まで、調査員・一般の方合わせて82名の方々にご参加いただきました。

今年のテーマは「with コロナ時代の里山の保全と活用」。新型コロナウイルス(以下、コロナ)の流行により、様々な活動の制限が余儀なくされ、里地調査にも様々な影響がありました(詳細は6ページ)。そこで社会の在り方が大きく変わりつつあるwith コロナ時代においても里山の生物多様性を保全し、さらに活用を進めていくために何ができるのかについて、午前はシンポジウム形式で講演をいただき、午後は分科会形式で参加者がグループに分かれて意見を交わしました。

<午前の部(シンポジウム)>

シンポジウムではまず環境省生物多様性センターの市塚友香氏から、モニタリングサイト1000の事業について紹介いただきました。その後日本自然保護協会の藤田卓が里山の生物多様性の現状について紹介し、健一自然農園代表の伊川健一氏からwith コロナ時代の里山の資源利用や保全活動についての講演、最後にCRファクトリー副理事長の五井潤利明氏から調査団体内の仲間づくりや関係性維持のためのポイントについての講演をいただきました。

その後の全体討論では、五井潤氏に進行いただき、伊川氏・藤田と共に参加者から寄せられた「なぜ里山の生物を保全しなければならないのか?」などの質問を発端に、里山保全をどう広めたらいいかなどについて対話を深めました。

「モニ 1000 里地調査でみえてきた里山の今」 藤田卓 (日本自然保護協会)



藤田からは、これまでの里地調査の結果から、チョウ類やホタル類など里山で普通に見られていた種が急速に減少している可能性がわかり、全国の里山で生物多様性の損失が深刻な状況にあることを報告しました。その原因として里山の管理放棄が考えられることから、今後の取り組みとして、現代的な里山の自然資源の活用と生態系保全の両立を実現する必要があることを指摘しました。また、

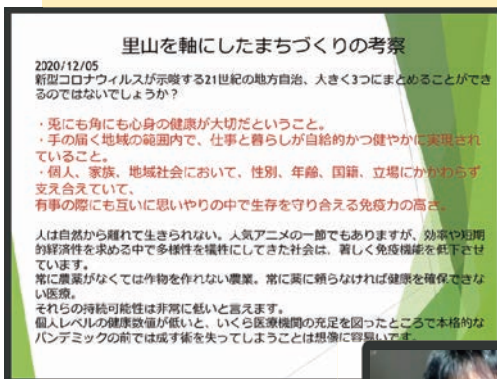
コロナ禍により、地方移住への関心が高まる等社会の意識が変化し始め、都市域の緑地の価値が向上するなど里山の新たな価値が注目され始めていることから、これをチャンスと捉え、里山保全活動をより促進するためのアイデアを皆さんと寄せ合いたい、と話しました。

藤田とスライド

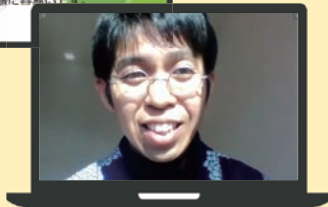
「モニタリングサイト1000 里地調査」とは

100年の長期にわたり里山の変化を早期に把握し、生物多様性の保全施策に役立てるための環境省の事業です。2021年2月現在、全国各地の約240か所の里山で市民ボランティアが主体となりモニタリング調査が行われています。調査地のことを、「場所」を表す英語「サイト(または調査サイト)」と呼んでいます。

■ 「コロナから学ぶ共生時代の里山経済」 伊川健一氏 (健一自然農園)

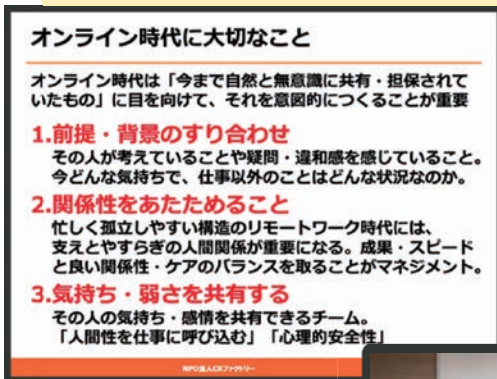


伊川氏とスライド



伊川氏は奈良県を拠点に、耕作放棄された茶畑を復活させて農薬・肥料を使用しない自然栽培のお茶を生産・販売するとともに、自治体のアドバイザーなどとしても活躍されています。伊川氏の講演では、始めにコロナ禍の今だからこそ自然と調和した健やかな人間と社会の在り方が求められていること、またその実現には里山循環農業とそれを基盤としたまちづくりが重要であるとのお話がありました。その後、自然栽培のお茶生産を軸に里山の自然資源を存分に活用し、時に教育や福祉など多様な分野と”協同”しながら、事業を通して生物多様性保全のみならず社会課題解決やまちづくりにも貢献している実例をご紹介いただきました。

■ 「with コロナ時代の市民活動・コミュニティ」 五井渕利明氏 (NPO 法人CR ファクトリー)



五井渕氏とスライド



市民団体などのコミュニティ活動の支援を専門としている五井渕氏からは、現場での調査や会合などリアルな活動が制限される中、団体の活動をより良く継続していくうえでのポイントをご紹介いただきました。講演の中では、リアルとオンラインを併用する「ハイブリッドな運営」の提案や、対面が限られる今だからこそ団体やメンバーの目指すビジョンや活動の意義・価値を再確認し、意識的にお互いケアし合うことの重要性などをお伝えいただきました。また、with コロナ時代の今、多くの人がリアルを求めており、現場をもっている調査員の方々は、他の分野の方とコラボレートする際に現場を提供・活用できるため多くの可能性をもっているとのお話をいただきました。

< 午後の部 (分科会) >

午後の分科会では13名が参加し、「里山の保全活用」「より良いチームづくり」の2つのテーマに分かれて、①今課題に感じていること、②課題解決のためにどんなことができるかについて意見を発表し合い、交流を深めました。

テーマに分かれて話し合ったものの、全グループで共通した課題は「後継者不足」でした。続く課題解決のためのアイデア出しの時間では、それぞれのグループで特に若い世代に活動に関わってもらうためのイベント企画などについてのアイデアが多く出されました。最後に「明日から取り組むこと」を各自手元の紙に記入し、全員で記念撮影を行いました。



オンライン全国交流会 午後部にて撮影した集合写真

今回初めてオンラインでの全国交流会となりましたが、事後アンケートでは、午前ではおよそ9割、午後ではおよそ7割の方から「大変満足・やや満足」と回答いただき、「多方面からの情報を得ることができた」「早速運営会議を開き、振り返りと来年の予定の話し合いをしました」などのご意見をいただきました。

参加者の皆さんがコロナ禍でもそれぞれの里山保全活動に取り組んでいく中で、今回の交流会を通じて得られたことを現場に即してアレンジし、活かしていただけると幸いです。

■ 初のオンライン調査講習会を開催しました

福田 真由子 (日本自然保護協会)

これまで里地調査では、調査精度の確保や手法の統一を図るため、全国各地で調査講習会を開催してきました。しかし今年度はコロナの感染拡大防止のために、初めてオンライン会議システムを使って調査講習会を10月24・25日に開催しました。

当日は岩手県から沖縄県までの延べ37名の方にご参加いただきました。講義は、オンライン開催であっても講習会後に現地で調査を実践できるよう、鳥類では里山で録音したガビチョウやウグイスなどの鳥の声を流して調査を体験いただきました。また哺乳類と水環境では、各

サイトでの撮影写真や調査地図を画面共有して全員で見ながら、写真の画角設定や調査地点の選び方などについて講師から具体的なアドバイスをいただき、調査員同士で学び合うことができました。

事後アンケートでは「受講して実際に調査できると思えましたか」の質問に対して10人中8人が「思う」、2人が「やや思う」と回答され、高い評価をいただくことができました。参加した方々からは「(PC画面に表示されるため)資料が見やすくわかりやすい」「活動継続の意欲が高まった」「全国からの参加者と対面できた」「離島でなかなか参加できないので、これからも実施して」などのご意見をいただき、オンライン講習会の利点や可能性を見いだすことができました。



鳥類講習会の様子

全国に調査サイトが点在する里地調査では、これまで調査員の方々に遠方から調査講習会開催地に集まっていた負担も大きかったのですが、オンライン形式の講習会は全国どこからでも手軽に参加することができます。今回の講習会では初めてオンライン会議システムを使う方に向けての事前接続テストも設け、当日スムーズにご利用いただくことができました。オンライン会議システムを利用したことのない方も、次はぜひチャレンジしてみてください。お待ちしております！

※講習会の動画(鳥・哺乳類)は、環境省 Youtube で公開予定です。



哺乳類調査講習会記念撮影

調査員の声



コアサイト「祖納の里山」(沖縄県八重山郡竹富町)
東まりこさん
(西表島エコツーリズム協会)

西表島は、面積の約9割を亜熱帯性の植物に覆われた、山も川も海も生物の多様性に富み生命力に溢れる島です。調査サイトは、西表島の中でも歴史が古い祖納集落と隣接した里山です。500年以上前からの稲作文化と石垣の町並みが残っており、人が自然と共に暮らす集落です。西表島エコツーリズム協会では、ホテル、植物相、鳥類の調査を、それぞれの分野に詳しい地域のみなさんや子どもたちと協力しながら実施しています。調査をすることで普段は目に留まらない植物や生きものをじっくり観ることができ、足元の豊かさに気づくことができます。

今回、調査員の不足などで実施が不安定だった鳥類調査の体制を立て直すため、調査講習会に参加しました。離島という条件上、なかなか講習会などのイベントへ参

加するのが難しかったこともあり、オンライン開催は逆に大歓迎で、「ZOOM」の操作もシンプルで難しいものではないため、気軽に参加することができました。説明資料が画面で見やすかったり、質問を思いついた時点でとやめずチャットに投げかけることができたりと、ZOOMならではの良い点はたくさんあり、不便さを感じることはほとんどありませんでした。調査方法や記録の仕方がよく理解できたので、より精度の高いデータにつながると思います。最近、当会の生きもの好きの会員さんの間でも鳥の観察や情報交換が活発なので、皆で交流しながら、楽しく調査を実施できそうです。



調査サイトの様子

2020年1月12日に開催した全国交流会の中で発表された内容を寄稿いただきました。

農業者との連携で里地の生物多様性の守り人を増やそう

里地は、農業が営まれる農業地域でもあり、農地はもちろん、里山林も多くは地域の農業者が所有している民有地です。農業者による農業の営みによって、田んぼや畑、水路や周辺の樹林地が維持管理され、そのことによって多種多様な生きものが育まれてきた環境です。

市民緑地や公園緑地などに指定された場所ならば、市民参加で生きものを守るための草刈りや湿地の保全活動を行うことが出来るかもしれません。しかし大部分を占める民有地では、観察や調査は出来たとしても、その環境の保全に取り組むことは難しいでしょう。「ここには貴重な生きものがいるので守ってください」とお願いしても、「ここは農地なんだから生きものじゃなくて作物を作ってるんだよ」と言われてしまうかもしれません。たとえどんなに貴重な動植物が生息する環境でも、耕作する農業者や土地の所有者の意向によってどのようにでもなってしまいます。

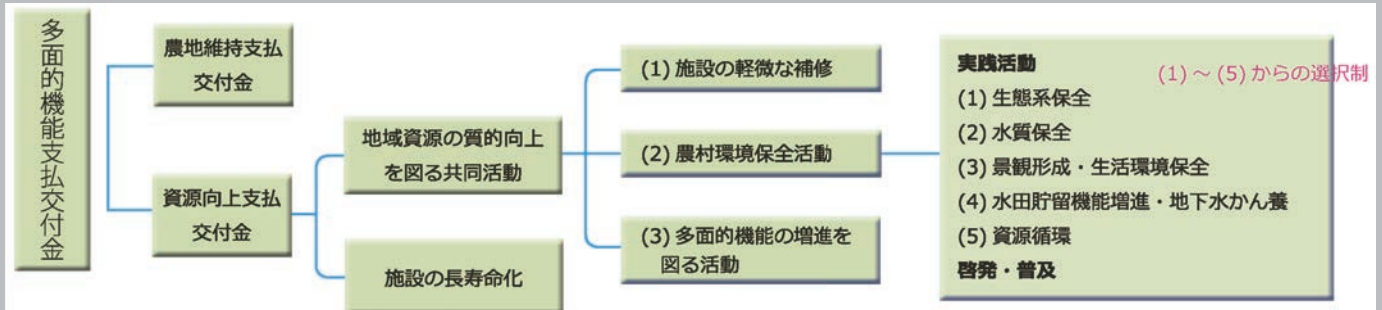
しかし、逆に地域の農業者と知り合いになって、その場所の生物多様性の豊かさの価値や、生きものを観察したり守ったりすることの大切さや楽しさを共有することが出来たら、さらには、生きものを保全する活動に、ともに取り組むことが出来たとしたら、里地の保全活動は、おおいに進捗することと思います。

調査員の皆さんが、里地の生物多様性の向上のための活動を地域の農業者等とともに取組もうとするときに、活用できそうな制度をいくつかご紹介したいと思います。



里地保全に関する様々な制度

多面的機能支払交付金



多面的機能支払交付金の主なしくみ

まずは、多面的機能支払交付金（以下、多面交付金）です。農業・農村には、農産物の生産以外にも、生きものの生息地としての機能をはじめ、美しい景観を形成する機能、洪水を防ぐ機能、文化を継承する機能など様々な機能があり、それらは農業・農村の多面的機能と呼ばれます。この制度は、農業者を中心として構成された組織（以後、活動組織）が多面的機能を発揮するための活動に、国や地方自治体が支援を行うもので、農地面積に応じて交付金が支払われ、日当や資機材費等に使うことができます。全国の総予算は毎年なんと約1千億円。日本全国で現在2万以上の活動組織があります。そのうちの約3割で、田んぼや水路の生きもの調査をはじめ、ホタルや魚類を保全する水路管理や、魚道の設置、生きものの移動を助ける施設の設置、ビオトープづくり、外来種駆除などの「生態系保全」をテーマとした活動が行われています。多面交付金は「生態系保全」のほか「景観形成」、「水質保全」など5つのテーマからの選択制で、全国的には、「景観形成」を選択し、花の植栽等を行っている組織が最も多いです。生きもの調査を含む「生態系保全」の活動は専門性が高く、やってみたいと思っても、容易に取り組めないという組織が多いのも現状です。

栃木県は、多面交付金の活動テーマに生態系保全活動を必須要件にしており、現場の活動がスムーズに進むよう、生きもの調査等の講師や助言を行うアドバイザー制度を作りました。活動組織はアドバイ



生きもの調査のアドバイザー支援

ザーに活動の支援を依頼することができます。アドバイザーには、自然観察指導員の方もいて、県内各地の活動組織で活躍されています。

田んぼまわりの生きもの調査は、農家と非農家、大人も子供もみんなが楽しく参加でき、多くの生きものを育む農業の役割を大いに実感できる活動です。また、地域の生きもの保全を始めるきっかけにもなることから、全国すべての組織に取り組んでほしい活動です。その実現には、アドバイザーの存在が欠かせないはずで、地域の生きものをよく知る全国の調査員の皆さんには、ぜひその役割を担っていただきたいと願っています。多面的機能支払交付金は農地の約45%で活用されている制度なので、皆さんの活動する地域にも、この制度に基づく組織があるかもしれません。自治体の農業関連部署に問い合わせて、活動組織の有無や活動状況、生態系保全に関する支援を必要としている組織はないかなど、確認してみてください。そして、「生きもの調査から始めてみませんか」と提案していただきたいと思います。



里山保全活動を進める農家の皆さんと筆者

■ 森林・山村多面的機能発揮交付金

里山林の保全活動に活用できるのが、森林・山村多面的機能発揮交付金です。森林の有する多面的機能を発揮するため、地域住民等が行う森林の手入れなどの共同活動への支援を行うもので、雑草木の刈払い、落ち葉掻きなどの「里山林保全活動」や「侵入竹除去、竹林整備活動」などが支援対象になっています。支援を受ける活動組織の構成員は、地域住民、森林所有者など地域の実情に応じた人（3名以上）であれば、NPO法人などでも可能です。既存の活動組織の協力者となるほか、調査員の皆さんが地域の方を巻き込んで組織を立ち上げることもできると思います。

▼各制度の詳細は以下



農林水産省 多面的機能支払交付金
https://www.maff.go.jp/j/nousin/kanri/tamen_siharai.html



林野庁
 森林・山村多面的機能発揮対策交付金
<https://www.rinya.maff.go.jp/j/sanson/tamenteki.html>



林野庁
 森林環境税及び森林環境譲与税
https://www.rinya.maff.go.jp/j/keikaku/kankyousei/kankyousei_jouyouzei.html

■ 森林環境譲与税

2018年から全国で森林環境税の徴収が始まりました。各地方自治体には、森林面積や人口に応じて森林整備のための森林環境譲与税（将来的に総額600億円）が交付され、森林の整備や国産材の利用、森林への理解を進めるための教育活動等に充てられることになりました。里山林の保全や、放置人工林の広葉樹林化にも活用できます。交付金は森林を持っていない自治体にも交付されます。首都圏の人口30万人の自治体に、毎年約4000万円、配布金額の一番多い横浜市は4億6千万円以上といわれています。始まったばかりのため活用の在り方はまだ模索中という自治体が多いです。このタイミングで里山林の生物多様性が向上するような活用を、皆さんから提案するのはとても有効かと思えます。

調査員の皆さん、ぜひ様々な場や機会を活用し、農業者や森林所有者、自治体などとの連携を進め、里地の生物多様性の向上のための活動に、これからもいっそう取り組んでいただければと期待しています。

こんな写真が撮れました

キツネ



～センサーカメラを使った哺乳類調査の現場より～ No. 16 「キツネの朝ごはん」

一般サイト「岐阜県百年公園」（岐阜県関市） 説田 健一さん（岐阜県博物館）

岐阜県百年公園は都市近郊の里山で、濃尾平野の外縁に立地します。豚熱（豚コレラのこと）の影響でイノシシがいなくなり大型哺乳類は生息しませんが、タヌキやキツネなど、本州で見られる中型哺乳類はひととおりいます。キツネは幼獣も撮影されるため、園内で繁殖しているものと考えられます。今回紹介するものも比較的若い個体です。写真が暗いので分かりにくいですが、モグラらしきものをくわえています。

事務局より

動物の世界も感染症で大変な中、キツネの幼獣がたくましく育っていく姿に癒されました。

♪センサーカメラで撮れたお気に入りの写真をぜひ事務局までお知らせください！ニュースレターでご紹介させていただきます。

新型コロナウイルス感染拡大による里地調査実施への影響について

2020年からコロナが全世界的に蔓延し、調査員の皆さまにおかれましては日々ご心配なことと思います。事務局では、コロナの感染拡大による調査実施への影響を把握するため、調査サイトの皆さまに各地の状況を報告いただけるよう年度当初にお願いしておりました。

その結果、里地調査サイト 237 サイトのうち 130 サイトから報告をいただき、そのうちコロナの感染拡大により調査へ何らかの影響があったサイトは 56 サイト (46%) でした。影響の内容については図のとおりです。

今後も感染の波は度々起こる可能性があります。調査を中止されたとしても、里地調査が目指す 100 年の長期調査には支障ありません。調査の実施については、各自治体の勧告・要請も確認いただき、皆さまのご健康を最優先として慎重にご判断くださいますようお願いいたします。心配なことがありましたらいつでも事務局までご相談ください。

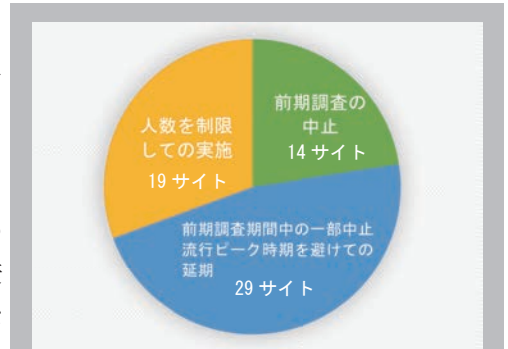


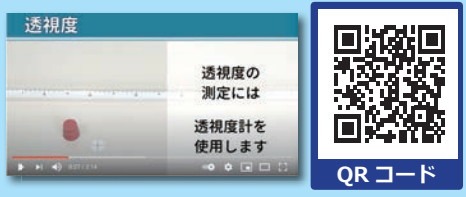
図. コロナ感染拡大による里地調査への影響の内容 (2020年11月1日現在)

水環境調査の講習動画が完成しました

事務局では、調査員の皆さまの講習会参加への負担を軽減するために動画マニュアルの作成を進めています。今年度は、精密機械の貸出しのために講習会の受講が必須となっている水環境調査の講習動画を作成しました。現場で実際に機材を使って測定している動画も織り交ぜ、紙マニュアルの文章だけでは伝わりにくい操作や測定のポイントについて、初心者の方にもわかりやすいものとなっています。調査全体に関しては、紙マニュアル (調査マニュアル概要版) も同時に改訂しておりますので、合わせてご覧いただき調査にご活用ください。

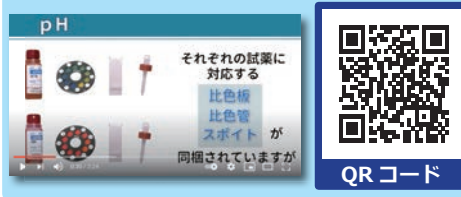
水環境調査マニュアル1 ～透視度編～ (約2分)

<https://youtu.be/-Ea1zEcXy5A>



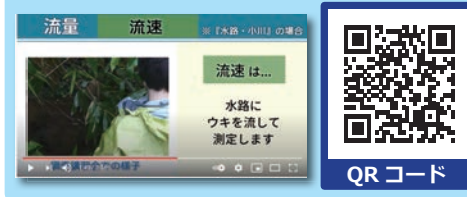
水環境調査マニュアル2 ～pH編～ (約3分)

<https://youtu.be/CSi6knPh8rs>



水環境調査マニュアル3 ～流量編～ (約3分)

<https://youtu.be/Y8Kf-l4GIQs>



※ Youtube を開いて「モニ1000 動画」でも検索できます。

日本モンキーセンターの特別展で里地調査の取り組みが紹介されました

霊長類専門の動物園である日本モンキーセンター (愛知県犬山市) は、里地調査の一般サイトとして 2008 年から哺乳類調査をしています。この日本モンキーセンターで、近年犬山で目撃されるようになったカモシカをはじめとする野生動物について紹介する夏季特別展「カモシカと犬山の野生動物」が 2020 年 6 月～10 月に開催され、事務局でも展示協力しました。特別展では、日本モンキーセンターで行っている哺乳類調査の結果と共に、全国で行っている里地調査の事業について紹介し、期間中に来園された 2 万 5 千人の一般の方に普及することができました。



特別展でのモニ 1000 の展示 (日本モンキーセンター提供)



事業のポスターの貸し出しをしています ぜひご活用ください!

事務局スタッフが新しくなりました



2020年6月から
後藤 なな に代わり
小林 彩 が担当となりました。
よろしくお願致します!

モニタリングサイト 1000 里地調査ニュースレター No. 20

2021年2月号 (2021年2月15日発行)

発行: 環境省自然環境局生物多様性センター

作成: 公益財団法人 日本自然保護協会

〒104-0033 東京都中央区新川 1-16-10 ミトヨビル 2F

TEL 03-3553-4104 / FAX 03-3553-0139

E-mail moni1000satochi@nacsj.or.jp

(担当: 市民活動推進部 福田、藤田、小林)

ウェブサイト <http://www.nacsj.or.jp/activities/guardians/moni1000/>

今回の表紙: エナガ (岐阜県関市中池)

